

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28~29年度:計画作成主体:木島平村農業再生協議会)(長野県)

取組の概要

対象品目 : 水稻(産地面積:25ha)
 主な取組主体 : 中心経営体 1名
 成果目標 : 生産コストの10%以上の減
 基準(H27年度) 108千円/10a
 目標(H30年度) 97千円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース
 (トラクター 1台))



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

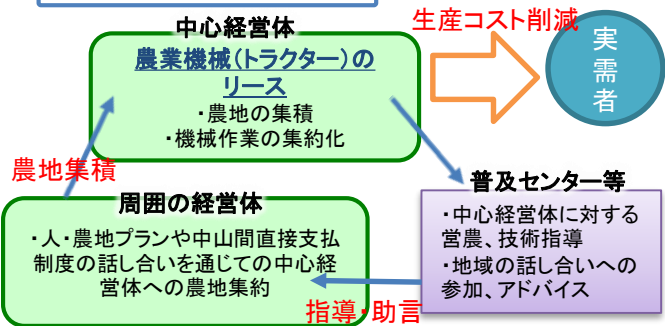
木島平村は県内有数の良質米産地であり、水稻作における中心経営体の体質強化が求められていた。また、村では中山間直接支払制度も活用しており、同制度において、中心経営体への農地集積と経営基盤の強化を目指すこととしていたことから、高性能機械の導入による省力化、機械作業の集約化等を推進し、生産コストの削減を図る。

【産地の体質強化に向けた方策】

①中心経営体への土地利用集積及び機械作業の集約化に向けた高性能機械の導入



産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・環境にやさしい農業の取り組み等による農薬・肥料代の削減
- ・「村長の太鼓判」などのブランド商品の開発
- ・堆肥センターの開設による良質堆肥の供給(資材コストの削減)

取組成果

【事業実施による直接効果】

①高性能機械の導入による生産コストの削減効果

【事業実施による間接効果】

- ①農業機械の高度化による経営面積の拡大及び経営効率の向上
- ②農地の集積による経営及び作業の効率化
- ③中心経営体への農地の集積による中山間地地域における水田の維持

生産コストが21%削減(目標:10%)
(達成率209%)

